

胃腸炎(感染性腸炎、感染性胃腸炎、ウイルス性(胃)腸炎、細菌性腸炎、2012年12月2日、本千葉小児科 2014RV2)

2014年12月、下痢・嘔吐症が流行しています。

胃腸炎は、下痢を伴う感染性疾患で、感染性腸炎、感染性胃腸炎とも呼ばれます。多くはウイルス性(胃)腸炎(お腹の風邪と説明します)で一部細菌性腸炎が原因の場合もあります。ロタワクチン予防接種との関連で説明します。

ネルソン小児科学19版によると、全世界で1年間の5歳未満の胃腸炎は2.5億人150万に死亡、死亡例でロタウイルス腸炎は50万人を占めるそうです(図に示すように6-11月の乳児に多い)。死亡例の大部分はアフリカ・南アジアです。栄養状態・ビタミンA欠乏・亜鉛欠乏が重症化の背景にあります。昔、日本でも重症胃腸炎(赤痢)で疫痢と呼ばれる病態が存在し、死亡・重篤な後遺症を残しましたが、現在は絶滅しました。1)日本の栄養・衛生環境の悪さ2)嘔吐・下痢症に対し電解質補充を行わず絶食させる誤った療法が行われていた事が疫痢背景にあると考えられます。

原因

胃腸炎の原因は、ウイルス・細菌・寄生虫等にわけられます。ウイルス性の多くは皆様ご存知のロタ・ノロウイルスで接触感染します。A型肝炎アデノウイルス等も胃腸炎を起こします。細菌性のは、生玉子によるサルモネラ・Campylobacter、赤痢菌、大腸菌、抗生剤使用に伴うクロストリジウム等があります。

症状

嘔吐・下痢の症状はウイルス・年齢により異なります。ロタ・ノロの場合、乳児は下痢が先行することが多く大人は嘔吐で始まることが多いようです。通常悪心・嘔吐を伴う時間は半日を超える事は少ないのですが数日に及ぶ場合があります。ロタ腸炎は痙攣・腸重積を伴うことがあります。

予防

ロタワクチンは2011年11月から日本でも使用可能となりました。ネルソンの教科書では、14週6日までに投与開始とされています。2回(Rotarix)のワクチン投与で重症胃腸炎が85%減少し下痢での入院が40%減ったとされています。非常に高額なワクチンで費用対効果に問題があります(メーカーはありとしている)。べらぼうに高額な同ワクチンは米国でも問題になっている様で、ネルソン19版updateではGAVI Allianceがワクチン価格を3分の1にさせたと書かれています。今の3分の1程度の価格が妥当なのでしょう(追記すると日本の輸入承認ワクチン価格は米国の概ね2倍)。

治療

下痢嘔吐により失われた電解質・水分補給とケトosisを防ぐ糖質補給が重要です。低張性経口補液剤の使用がよいとされています。りんご・グレープ等のジュースは薄めて少量頻回投与がよいと思われます。日本ではおかゆ・ご飯・うどん・ラーメン等を薄味で少量頻回。りんごのおろし重湯等も適当と思われます。

ミヤBM・ラックB等の整腸剤は腸内環境を改善させるのに有効と考えられています。嘔吐を止める薬剤は胃腸炎の嘔吐にはなるべく使用しない選択がよいのですが、処方せざるを得ない現状です。ロペミン等のお腹の動きを抑える薬剤投与は禁忌です。

嘔吐頻回・脱水症(概ね体重10%減)では輸液が必要です。当院でも開院2年で尿酸値が15以上となり腎不全寸前の症例を3例経験しました。

